

愛知のグローバル人材の育成 ～イマージョン教育って何？～

愛知県内には様々なグローバル教育を行っている学校がありますが、みなさんをご存じですか？一言でグローバル教育といっても、日本人向けの英会話スクールから外国籍児童・生徒向けのインターナショナルスクールまでまさに形態は様々です。

今回は愛知でイマージョン教育を行っている学校法人 SOLAN 学園瀬戸 SOLAN 小学校と豊橋市立八町小学校を訪問しました。この2校では日本人も外国籍児童も一緒に同じ授業を受けています。今号ではその内容についてご紹介します。

☆イマージョン教育とは…バイリンガル教育のひとつ。イマージョンとは英語で「浸す」という意味で、外国語にどっぷりと「浸す」ことで母国語以外の言語を習得する手法です。例えば英語だけではなく算数、理科、社会、体育、図工といった教科を外国語で学び、まさに外国語に浸らせる学習方法です。



瀬戸 SOLAN 小学校

愛知県瀬戸市にある瀬戸 SOLAN 小学校は2021年に開校したばかりの新しい私立学校です。「グローバルシチズンシップの育成」を教育目標として掲げ、英語を日常言語とみなし、英語の授業は基本的にすべて英語で行うほか、体育、音楽、図工、生活科などの授業も英語で行っています。英語の教師はネイティブスピーカーで、1クラス25人前後の少人数制で授業を行っています。教室には壁がなく、開放的な空間で学習することができ、また、図書室にはハンモックやビーズクッションが設置してあり、リラックスして読書を楽しむこともできます。

子どもたちのクラス分けについては、TOEFL Primary（小中学生向け英語運用能力テスト）のスコアを材料の1つとして行うそうです。英語で授業を行うため、英語のレベルをきちんと把握する必要があるのですね。

取材をした当日は SOLAN 小学校オリジナルの「探究学習」が行われていました。自分が興味をもっていること、知りたいこと、疑問に思ったことについて、自分の力で調べ、新しく見つけた知識や発見についてまとめ、それを論理的に他の人に伝える授業です。通常の教科とは違い、3～5年生が広場に一堂に集まり、自ら調べたいことを決め、タブレットを駆使して調べたり発表資料を作成したりします。この日はフィールドワークの計画を立てており、名古屋港水族館に行く児童たちがフィリピン出身の先生と英語で相談をしている姿を目にしました。先生が英語で話しかけると「Yes！」と元気に返事をして「So, when will we have lunch?」などと英語でスラスラと質問をしている姿が印象的でした。このように言語の習得だけでなく、自ら学び考える力を養う教育が印象的な SOLAN 小学校でした。



▲プレゼンテーションをする5年生



▲英語で相談をする様子



▲ハンモックやクッションのある図書室

豊橋市立八町小学校

愛知県豊橋市にある八町小学校は、公立小学校として全国で初めてイマージョン教育を取り入れた革新的な小学校です。各学年に1クラスずつイマージョンクラスがあり、6名の外国籍児童・帰国子女児童と20名の一般児童と一緒に授業を受けています。国語と道徳以外の教科をすべて英語で実施しており、教師はネイティブスピーカーのNET*と英語が話せる日本人教師の2名でチームティーチング*を行っています。



▲算数の授業を行うメリッサ先生

フィリピン出身のメリッサ・ブランガイ先生に授業を行う上で難しい点はあるかを質問すると、「難しいことはたくさんある。英語のレベルも違う。国によって算数の問題の解き方なども違う。子どもたちに寄り添って教えることが本当に大変。」とおっしゃっていました。また、「授業の準備には日本人教師のサポートが不可欠。日本式の教え方をどうやって英語で教えるかを打ち合わせする。日本語での授業の倍の時間がかかる。」とも。軽快に英語で授業を行っている裏には綿密な準備があるようです。そのおかげか、メリッサ先生の算数の授業ではクラスの児童たちが揃って大きな声で割り算の式を英語で上手に読み上げていました。

また、学校内のさまざまな場所の掲示物が英語で書かれ、時間割やイベントの情報などを読むだけで自然と英語に触れる機会があることが素晴らしいと感じました。運動会での思い出作文が壁に貼りだされていましたが、それもすべて英語で書かれており、大人顔負けの素晴らしい文章でした。

このイマージョンクラスには豊橋市内に在住の児童が入級することができます。八町小学校に通うため引越してこられた方もいるそうです。こういった取り組みが全国的にもっと広がり、より多くの児童がイマージョン教育に触れる機会があるといいですね。

※ NET・・・Native English Teacher

※ チームティーチング・・・複数の教師が協力して教育指導にあたる方式。



▲図工の授業の様子



▲掲示物もすべて英語

この2校を取材し、愛知のグローバル人材の育成は公立・私立学校共にとても進んでいることがわかりました。今回ご紹介したイマージョン教育は第二言語習得のための手法の一つですが、それ以外にも自然と子どもたちが世界に触れる機会がさらに増え、将来的には日本から世界を牽引するような人材が増えることを期待しています。

○参考文献：日本語を教えるための第二言語習得論入門（くろしお出版）